

一般社団法人 BECAME 事業報告書

2025 年度

2025.05.01 — 2026.04.30



BECAME

我が子とのお別れ後のサポートが溢れる世界へ

01 BECAME について

ABOUT US / VISION & MISSION

一般社団法人 BECAME は、化学流産、中絶、流産、死産、新生児死、乳児死など、さまざまなかたちで我が子とのお別れを経験したお母さん、お父さんを支えるために設立されました。誰もが悲しみをひとりで抱え込まず、必要なときに必要な支援へつながれる社会を目指しています。

VISION

我が子とのお別れ後のサポートが溢れる世界。すべての地域で心のケアや産後のフォローアップを受けられ、心身の回復と生活を支える休暇・補償制度を利用できる環境を目指します。

MISSION

当事者が手軽に心のケアへつながれる環境をつくり、流産・死産等の実情と支援の必要性を社会へ伝え、行政・医療・企業とともに支援の仕組みを広げます。

団体概要

設立	オンライン支援	相談サービス
2023.06	全国	無償

WEB <https://became.or.jp/>

02 2025 年度の歩み

YEAR IN REVIEW

伴走型支援と相談窓口の多層化

従来のオンライン個別おはなし会と Instagram の DM 相談に加え、群馬県共同募金会様の助成を受け、予約不要で利用できる公式 LINE 相談窓口を開設しました。「相談したい」と感じたそのときにメッセージを送れる入口を整えたことで、初めて相談を利用する方や、おはなし会後も継続してつながりたい方に、より切れ目のない支援を届けられるようになりました。

安心して集える場を地域へ

我が子を想いながら手を動かす刺繍ワークショップ、Baby Loss Awareness Week に合わせた都内ランチ会、BECAME として大阪で初めて開催したおはなし会の3つの場を設けました。形式や地域を変えながら、同じ経験を持つ方同士が安心して語り、つながれる機会を広げました。

当事者の声を社会へ

サポートマップへの掲載、公開イベント、保険業界カンファレンスへの登壇、行政・医療機関との対話を通じ、個人の悲しみに留められがちな経験を社会課題として伝えました。直接支援で受け止めた声を、支援制度や職場環境の改善につなげるための発信を進めた一年でした。

個別おはなし会

60 回

LINE 対応延べ件数

1,764 件

イベント参加

12 名

03 当事者への直接支援

DIRECT SUPPORT

個別オンラインおはなし会

同じ経験を持つサポーターが、オンラインで一对一のお話を伺う無償サービスを継続しました。一度きりの対応ではなく、月命日や治療、復職など、その後のライフイベントも共有できる伴走型の支援として、年度内に 60 回実施しました。

Instagram ダイレクトメッセージ相談

メッセージで相談を受け付け、気持ちや状況に合わせて返信しました。年度内の相談対応は 235 件となり、日常的に利用している SNS から気軽につながれる相談窓口として運営しました。

公式 LINE 相談窓口

2025 年 9 月に開設し、24 時間メッセージを受け付け、順次返信する体制を整えました。2026 年 4 月末までの新規登録者は 40 名、相談者からのメッセージと返信を含む対応件数は延べ 1,764 件でした。予約不要のため、夜間や休日を含め、不安が強まったときにまず気持ちを送れる相談先として機能しました。

LINE 新規登録	LINE 対応	Instagram DM
40 名	1,764 件	235 件

支援体制の強化

オンライン個別おはなし会の予約が代表に集中する課題に対し、異なる喪失経験を持つ 4 名が参加するサポーター勉強会・ロールプレイングを実施しました。相談者が自分に合う相手を選びやすく、複数のサポーターが安心して支援を担える体制づくりを進めました。

04 つながる場をひらく

EVENTS & CONNECTIONS



刺繍ワークショップ



BLAW ランチ会（東京）



おはなし会@大阪

当事者向けイベント

刺繍ワークショップでは、我が子の名前や足形がプリントされた生地に刺繍を施し、作品づくりを通じて大切な記憶を語り合いました。Baby Loss Awareness Week に合わせた都内ランチ会は募集後早期に定員となり、食事をしながら安心して話せる場となりました。大阪で初めて開催したおはなし会では、「赤ちゃんのお見送りガイドブック」制作者との協働により、お別れの際に必要な情報や地域ごとの医療・行政対応について共有しました。

『働く女性のためのサポートマップ』への掲載

NPO 法人 ArrowArrow 様が、働く女性がライフイベントやケアに関する悩みに応じて支援先を探せるよう制作したビジュアルガイドに、BECAME を掲載いただきました。50 の団体・企業を「働く・ケア・健康」の3 カテゴリーで紹介するマップを通じ、流産・死産等の喪失を経験した働く女性が相談先を見つけるための新たな導線が生まれました。

公開を記念した連続イベントでは、2025 年 7 月 16 日の『働く×流産・死産・お子さんの喪失』に登壇し、喪失が心身やキャリアに与える影響、職場の理解と支援の必要性を伝えました。

[サポートマップを見る](#) / [イベントレポートを見る](#)

05 社会へ届ける啓発活動

AWARENESS & ADVOCACY

ホケンノミライ 2026 登壇

2026 年 3 月 6 日、約 180 名が来場した保険業界の大規模カンファレンス『ホケンノミライ 2026』に登壇しました。セッション『原体験が社会を動かすとき—当事者から生まれたソーシャルベンチャー／NPO—』では、BECAME 設立の背景、当事者の孤立、公的支援の不足、個人の経験を社会課題として可視化する意義を伝えました。

登壇中の写真をここに挿入予定

[GuardTech コミュニティ様 セッションレポート](#)

行政・医療機関との対話

群馬県内 12 市へ、流産・死産等を経験した方への支援の必要性和研修提供について働きかけを行い、前橋市こども支援課と意見交換を実施しました。また、佐藤病院様とは院内のグリーフケア、退院後支援、行政との情報連携について意見交換し、『赤ちゃんのお見送りガイドブック』の設置可能性を含む今後の連携について対話しました。

LINE 相談窓口の社会発信

2025 年 9 月 25 日に LINE 相談窓口開設のプレスリリースを発信し、2026 年 3 月末までに累計 382PV、25 媒体への掲載・転載につながりました。当事者だけでなく、支援者や関係機関にも、必要なときにすぐ相談できる場の意義を伝える機会となりました。

06 助成金を活用した事業

GRANT-FUNDED PROGRAMS

赤い羽根共同募金会『そだてる助成』2年目

当事者向けのおはなし会を継続するとともに、支援体制の強化、行政・医療機関への働きかけ、当事者向けイベントを実施しました。群馬県内12市への案内、前橋市こども支援課および佐藤病院様との意見交換、サポーター4名による勉強会・ロールプレイングを通じ、当事者が安心して相談できる受け皿と、今後の紹介・連携につながる基盤づくりを進めました。

2025年度『今、動き出す！』福祉活動スタートアップ助成

予約不要で相談できる公式LINE窓口を構築し、2025年9月から本格運用を開始しました。24時間受付と順次返信の体制、個別相談フォーム、WEBサイト上のLINE登録導線を整備し、チラシによる周知も行いました。2026年3月末時点で登録者38名、対応延べ1,562件となり、4月分を含めると年度関連実績は登録者40名、対応延べ1,764件となりました。

助成事業を通じて得られたこと

相談窓口の種類を増やすだけでなく、支援する人材の育成、行政・医療との対話、情報が必要な方へ届く導線づくりを同時に進めることができました。今後は運営体制を強化し、相談の安心感を保ちながら、より多くの方へ支援を届けることが課題です。

07 研修・講師活動

NONPROFIT CAPACITY BUILDING

PC 版 はじめての Canva セミナー

2025 年 7 月 12 日、NPO・ボランティアサロンぐんまにて、NPO や市民活動団体のスタッフ等を対象に講師を務めました。Canva の基本操作、テンプレートを活用した A4 チラシ制作、保存・共有方法、余白・配色・文字量などのデザインの基本を、実習形式で伝えました。参加者からは、対面で丁寧に学べたことや、実際に手を動かして理解できたことへの感想が寄せられました。

[開催報告を見る](#)

群馬県共同募金会 広報研修

社会福祉法人群馬県共同募金会にて広報研修の講師を務め、活動の意義や成果を分かりやすく伝えるための情報整理と発信について共有しました。非営利団体として培ってきた広報実務の知見を、地域福祉を支える組織の発信力向上に還元しました。

非営利活動としての講師実績

BECAME の当事者支援に加え、地域の NPO・市民活動団体や福祉組織の情報発信力を支えることで、社会課題に取り組む人や団体が必要な支援者へ届きやすくなる環境づくりにも貢献しました。

08 参加者数と支援者数

IMPACT AT A GLANCE

オンラインおはなし会	オフラインイベント	イベント参加
60 回	3 回	12 名

Instagram DM 相談	就労支援個別説明	LINE 対応延べ件数
235 件	3 名	1,764 件

寄付によるご支援

- READYFOR 継続寄付支援者：4 名（2025 年 5 月から 2026 年 4 月）
- Syncable 寄付支援者：25 名（2024 年 8 月から 2025 年 6 月分が 2026 年 4 月に振込）
- 銀行振込による寄付支援者：1 名（2025 年 5 月から 2026 年 4 月）

寄付金額の詳細は、別途決算報告書（PDF）をご参照ください。

SNS フォロワー数（2026 年 4 月 30 日時点）

X	764 名
Instagram	1,636 名
Facebook	1 名
Threads	279 名
合計	2,680 名

09 WEB サイト・SNS の活用

DIGITAL REACH

総ユーザー数	総セッション数	GA 表示のユーザー伸長
8,413 名	12,000 回	+50.0%

2025 年 5 月 1 日から 2026 年 4 月 30 日までの WEB サイト総ユーザー数は 8,413 名、総セッション数は 12,000 回となりました。Google Analytics の比較表示では、総ユーザー数は約 50.0%、セッション数は約 40.9%増加しています。アクティブユーザーも 49.4%増加しており、前年より多くの方が BECAME の情報や支援内容へ接触したことが分かります。

特に、相談窓口やダウンロードページ、団体・サービス紹介ページが閲覧されており、WEB サイトが団体を知るための広報媒体にとどまらず、必要な支援を探し、相談へつながる入口として機能し始めています。LINE 相談導線の整備、支援情報の拡充、SEO を意識したサイト改善、外部メディアやイベントからの流入が、アクセス増加に寄与したと考えられます。

分析上の留意点

期間中にアクセス推移の大きな変化が見られるため、計測設定やサイト更新の影響も含まれる可能性があります。今後は、相談予約・LINE 登録・ガイドブック閲覧など、支援につながる行動を目標として設定し、アクセス数だけでなく『必要な方が支援へ到達できたか』を継続して確認します。

WEB サイトの役割

団体の活動を知るための情報発信に加え、相談予約、LINE 登録、ガイドブック閲覧など、必要な支援へつながる入口として整備を進めました。

次年度の確認項目

アクセス数だけでなく、相談予約や LINE 登録など、実際に支援へつながった行動を継続して確認し、導線の改善に活かします。

10 2026 年度に向けて

NEXT STEPS

企業研修を、安心して働き続けられる職場づくりへ

2025 年度は企業への研修導入を大きく広げるには至りませんでした。一方、流産・死産等を経験しながら働く当事者は少なくなく、復職後の配慮、上司や同僚の声かけ、休暇や業務調整を個人任せにしない職場づくりは、引き続き重要な課題です。2026 年度は、全社員向け・管理職向け研修に加え、当事者への相談支援や復職・定着支援までを組み合わせ、制度と職場文化の両面から企業を支援します。当事者が経験を隠して耐えるのではなく、安心して働き続けられる環境を広げていきます。

2 つの助成事業で、支援につながる導線を社会に実装

2026 年度は、中央ろうきん助成制度『カナエルチカラ』と赤い羽根共同募金『そだてる助成』の2 事業に採択いただきました。『カナエルチカラ』では1 件から5 件の病院と連携し、院内の語り場、職員研修、火葬・行政手続き・外部支援先等をまとめた案内を組み合わせ、産後健診後も支援につながる院内導線モデルを試行・検証します。『そだてる助成』では、おはなし会・LINE 相談を継続しながら、群馬県内の公営火葬場や病院へのパンフレット設置、企業との意見交換を進めます。

これまでにない形で、声なき経験を社会へ

流産・死産等をめぐる制度や支援が十分に広がってこなかった背景には、深い悲しみを抱える当事者が、自らの経験を公に語ることの難しさがあります。BECAME は、相談の場で受け止めた声を大切にしながら、登壇、メディア発信、企業・医療・行政との対話、当事者と社会が出会うイベントなど、多様な方法で課題を可視化します。命の大切さだけでなく、喪失後に生じる心身・生活・就労上の困難と、具体的に必要な支援までを伝え、共感を制度や行動の変化につなげていきます。

11 収支報告・ご支援への感謝

FINANCE & GRATITUDE

収支報告

2025 年度収支

詳細は、別途『2025 年 3 期（収益 2 期目）決算報告書・個別注記表（PDF）』をご参照ください。

ご支援いただいている皆さまへ

2023 年 6 月 1 日、流産・死産・新生児死・乳児死・中絶など、さまざまなかたちで大切な命とのお別れを経験された方が、悲しみの中でひとりにならない社会をつくりたいという思いから、一般社団法人 BECAME は設立されました。

設立から 3 年目となる 2025 年度は、オンライン個別おはなし会や Instagram での相談を続けながら、新たに公式 LINE 相談窓口を開設し、より気軽に、必要なその瞬間につながれる支援へと一歩進むことができました。東京・大阪でのイベント、サポーターの育成、行政・医療機関との対話、カンファレンスや公開イベントでの発信など、当事者に直接寄り添う活動と、社会へ理解を広げる活動の両方を進めた一年でもありました。

これらの取り組みは、私たちだけの力で実現できたものではありません。継続寄付や単発寄付で活動を支えてくださる皆さま、助成を通じて新しい挑戦を後押しして下さった群馬県共同募金会様、相談やイベントに関わってくださるサポーター・協力者の皆さま、活動を知り、伝え、つないでくださるすべての方のお力があって、BECAME は歩みを続けることができます。心より感謝申し上げます。

2026 年度も、必要な方が迷わず支援へたどり着ける仕組みを、病院・地域・企業へと広げてまいります。皆さまから託していただいたお気持ちを、一人ひとりの『ひとりじゃない』につなげ、我が子とのお別れ後のサポートが当たり前 to 存在する社会を目指します。今後とも、温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人 BECAME

代表理事 渡邊 恵理